

## 高知県の神楽における鬼と翁の身体技法の調査

梅野光興

UMENO Mitsuoki

神楽は、日本の民俗芸能の一種である。神楽の言葉の指し示す範囲は広いが、狭義には、神ごとの中で、太鼓や笛などの音楽が鳴る中、執り物を持ったり神々の仮面をつけた演者が舞を舞うもので、時に歌や唱文も行なわれたり演劇的なやりとりを行なうものもある。

四国の南半分をしめる高知県の山間部には、東から西まで点々と神楽が分布している。そのうち10カ所の神楽が「土佐の神楽」として昭和55年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。東の方から言うと、物部村：いざなぎ流御祈禱、大豊町：岩原神楽・永淵神楽、本川村：本川神楽、池川町：安居神楽・池川神楽、吾川村：名野川神楽、東津野村：津野山古式神楽、禰原町：津野山神楽、十和村：幡多神楽である。それぞれの神楽には共通する要素もあり、隣接する神楽ほどその傾向は大きいですが、地域によって少しずつ変化し、東のいざなぎ流と西の神楽ではかなり様相を異にする。今回は、そのうち中部から西部の神楽、本川村の本川神楽、吾川村の名野川神楽、東津野村の津野山古式神楽の3カ所を調査した。

調査の日程と見学した神楽の演目は次の通り。

### 11月14日 本川神楽

場所：土佐郡本川村大森八幡宮

時間：午後7時～11時45分

演目：1 座つき、2 神迎え、3 注連の舞、4 座堅め、5 初穂寄せ、6 山王の舞、7 座祝い、  
8 相舞、9 幣の舞、10 般若の舞、11 折敷の舞、12 鬼神争い（木樵りの舞、姫の舞、  
カゲンの舞）、13 長刀の舞、14 つるぎの舞、16 神送り

### 11月15日 名野川神楽

場所：吾川郡吾川村峠ノ越名野川神社

時間：午前11時50分～午後3時58分

演目：1 注連の舞、2 白開の舞、3 一番神の舞、4 神迎えの舞、5 宇受姫の舞、6 幣戸の  
舞、7 飛出の舞、8 山主の舞、9 折敷の舞、10 二天の舞、11 弓の舞、12 四天の舞、  
13 豊熟の舞、14 薙刀の舞

### 11月16日 津野山古式神楽

場所：高岡郡東津野村高野三島神社

時間：午前 11 時 7 分～12 時，2 時 18 分～5 時 8 分

演目：1 宮入り，2 みそぎ，3 幣舞，4 手草，5 天の岩戸，〈御神幸〉，6 悪魔祓い，7 大  
蛭，8 鯛つり，9 花米，10 二天，11 山探し，12 四天

本川村は高知県の中部山岳地帯，徳島県に流入する吉野川の源流域に位置し，吾川村はその西南方で，土佐湾に流入する仁淀川上流域に，東津野村はさらに西南方の，県西部を流れる四万十川の源流域に位置するいずれも山間の村である．三カ所は四国山地の中にあるという点は同じだが，水系としては異なっている．今回はこの三カ所を東から西へ山越えしながら順番に調査した．そのことで共通する部分と異なる部分が理解しやすく，観察を深めるのに有意義であった．

神楽は，それぞれの村の神社の秋祭りに奉納される．いずれも，まず神職による神事が行なわれたあと，続けて拝殿で神楽が上演される．本川神楽は夜神楽で，12 時近くまでかかるが，他の二つの神楽は昼間の奉納である．東津野村高野は今年 4 年に一度御神幸を行なう年にあたっていたため，午前中，神事と「天の岩戸」までの神楽をすませてから，近くの御旅所へ御神輿の御神幸が行なわれ，その後，後半の演目が上演された．

神楽を行なうのは地元の人々で作られた保存会のメンバーである．もともとは舞太夫と呼ばれる宗教芸能者や神職たちが伝承してきた神楽だが，近年ではそれと関係なく地元の有志によって舞われている所が多い．名野川と津野山では，舞いや太鼓に地元の小中学生の参加も見られた．本川では祈禱も行なう太夫が神楽長をつとめており，古い形態をとどめている．三カ所とも，11 月から 12 月にかけてエリア内の数カ所の神社を同じグループが巡回する．

それぞれの神楽の順番や演目は場所によってすべて異なっているが，おおむね流れは共通するようである．はじめには仮面を使わない舞いがいくつか続く．神迎えや，舞台を飾り付ける舞い（注連の舞，白開の舞），舞台を清め，魔を祓う舞（座堅め，手草）などである．その後，仮面の神々が登場する．本川神楽の場合は山王という悪魔を祓い村人を護る鬼神面，名野川と津野山では天照大神（名野川では天照を招くためウズメが先に舞う）という太陽神が最初に登場する．ここまでがそれぞれの神楽にとって最も重要な部分で，名野川神楽では「磐戸」まではどんなことがあても省略されないと言ひ，本川神楽では「山王」が終わると「座祝い」という中休みの宴会が入り，津野山でも今回は「天の岩戸」の後御神幸をはさんだ．

その後は，弓や剣などやはり悪魔を排除するための武器を手にした仮面をつけない舞，福の神の大国や稲荷，恵比寿が現れ舞台に金銭をばらまいたり，酒やお金を釣り上げたりするめでたい仮面舞，神楽を邪魔しに現れた悪鬼「だいばん」を神が問答で打ち負かし降参させる演目など，神楽によって順番は異なるがさまざまな舞が数時間かけて奉納される．演目の種類はおおよそ似たものが多い．本川神楽の場合，調査地では，祈願があった時に奉納される「しかみの舞」以外はすべての演目が上演された．名野川神楽では現行の演目はすべて上演された．津野山古式神楽はすべての演目を上演するには 8 時間を要するというので主要な演目が上演された．

登場する仮面にも似た傾向があり，大きく分けると，鬼，女神，福の神，老人の面などが用いられる．

その中でも，鬼の演目の数が多いが，鬼といっても大きく二種類の鬼がいる．

ひとつは悪魔を祓う善い鬼。もうひとつは退治される悪い鬼である。前者は「山王」「山主」「山探し」、後者は「鬼神」「だいばん」などと呼ばれている。本川神楽の山王には「山王の本地」という唱文が、だいばんには、神との問答のシナリオがあるほか、衣装、執り物、演じ方など両者は対照的である。

女神の舞は「岩戸」の天照大神、名野川の「宇受姫」が、福の神としては名野川の「豊熟」に登場する稲荷・大国主、津野山の「鯛釣り」の恵比寿がある。

老人の面としては、名野川の稲荷が白い髭を生やし、老人の神を現しているが、これも含めて今回見た3カ所の神楽には、能の翁と同系統の演目は無かった。だが、本川神楽の木樵りの舞いは、真っ黒い顔の木樵り面が神楽の舞台にまぎれこみ、観客と即興でやりとりを演じたりするもので、古風な要素を残しているものと思われ、翁との遠いつながりを考える上では大変参考になるものと思われる。

これらの演目には、他県の神楽と類似・共通するものも多く、それぞれの仮面、唱文、演じ方を比較して見ていくことによって、系統や分布、そして日本人の鬼や翁、女神に対するイメージを明らかにしていくことができる、と考えられる。

(COE 共同研究員)